

青木村子どもはつらつネットワーク通信

平成28年度 第135号 12月1日
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

青木村の子どもたちが利用している児童センターでは、昨年から地域おこし協力隊の塚田さん、今年4月からはALT（アシスタント・ラングエッジ・ティーチャー）のマック先生が子どもたちと関わってくださっています。児童センターの高田所長にはお二人の様子をお聞きし、塚田さんには子どもたちと関わっている感想、マック先生にはインタビューをさせていただきました。



塚ちゃんとマック先生との放課後

青木村児童センター 高田 玲子

児童センターには昨年度に引き続き、地域おこし協力隊の塚田真也隊員（子どもたちは塚ちゃんと呼んでいます）が月・木曜日に、そして今年度から青木保育園・青木小学校・青木中学校でALTを務めているマック先生が火・水・金曜日に来ています。



塚ちゃんは男の子にも女の子にも大人気です。みんな塚ちゃんと遊ぶのをとても楽しみにしていて、「塚ちゃん、一緒に遊ぼうよ。」「塚ちゃん、こんどはこっちに来て」と体が一つでは足りないほどです。

マック先生は英語と日本語を混ぜながら積極的に子どもたちに話しかけます。マック先生が話す英語のすぐ近くで子どもたちが遊びます。空気を吸うように英語が近くにある放課後は青木村の他にはないと思います。

また、児童センターで月に2回行っている水曜クラブでは、お二人が教えるクラブが2つ新設されました。塚ちゃんは『ルービックキューブ』、マック先生は『英語で遊ぼう』を担当しています。おかげさまで水曜クラブはさらに充実し、子どもたちは多くの楽しい体験をしています。

塚ちゃんとマック先生のおかげで青木村児童センターの子どもたちは、ますます楽しく活動的に放課後を過ごしています。



青木村の子ども達

青木村地域おこし協力隊 塚田 真也

「青木村の子ども達はどんな子たちですか？」と聞かれて真っ先に浮かんでくるのは「人を疑わない」という言葉です。昨年の春から地域おこし協力隊の活動として児童センターに携わることになり、あっという間に一年半が過ぎました。青木村の元気な子ども達、本当に文字通り「元気」な子ども達から日々やる気をもらっています。

そんな子ども達を見ていて一番感じる事が「人を疑わない」という事です。児童センターを訪れる大人に対し、興味と好奇心を持ってアプローチしていく子ども達の素直な姿を見るたびに人を疑わない、真っ直ぐな子たちなのだという事を感ずります。



その理由として地域の大人と子ども達が関わる機会が多いという事があると思います。農村体験や地区行事、水曜クラブをはじめとする児童センター内での様々な催しなどを通して多くの、そしていろいろな大人達と日々接しているからではないでしょうか？

村全体で長年取り組んできた成果の上に今の環境があり、そこにこうして携われている事に大変感謝していますし、そんな環境にいる青木村の子ども達をととても羨ましく思っています。

最近私が児童センターでの活動で特に楽しみに、そしてありがたく思うのが子ども達の成長を身近に感じられるということです。一年半で子ども達の身長は伸び、顔つきも変わり、行動や感性も変化していきます。

そんな子ども達の成長をこれからも末永く見る事が出来ればいいなあと考えております。

そんな子ども達の成長をこれからも末永く見る事が出来ればいいなあと考えております。

★塚ちゃんの趣味★

一番の趣味は、クライミングです。19歳で出会い20代の時は世界中にある岩を求めて、暇を見つけては登りに行きました。ジャンルを問わず幅広く登っています。オリンピック種目として新しく決まったのでこれからが楽しみです。それ以外にマウンテンバイクを好んで乗っています。「MTBマラソン（自転車の長距離マラソン）」というジャンルをメインにやっています。SDA王滝（セルフディスカバリーアドベンチャー王滝）には毎年出場しています。



MacKenzie Stine (マッケンジー・スタイン)、通称マック先生 インタビュー



私はアメリカのネブラスカ州出身です。アメリカ合衆国の中部、山のない平坦な地域でコーンやビーフの生産で有名です。アメリカの大学で2年間日本語を勉強し、さらに日本の大学に2年程留学、その後アメリカの大学を卒業してから来日し現在の仕事に就きました。アメリカでは日本＝東京

(大都市)というイメージが強いのですが、私は日本の田舎の自然の美しさがとても好きです。青木に来る前にいた越後湯沢は初めて住んだ田舎ですが、とても自然が美しくて驚きました。青木の自然もすばらしく、秋の空気感はネブラスカに似ています。東京のナイトライフも好きです。夜のレインボーブリッジやスカイツリーはきれいです。

日本に来て驚いたことは、人々がとても礼儀正しくて丁寧だということです。地下鉄の乗り方や日常の行動はどこか規則正しくシステマティックな感じがします。コンビニの店員さんはアメリカではもっとフレンドリーです。もともとフレンドリーな方がいいという価値観なので、文化の違いを感じます。日本ではマニュアル的な丁寧さがプロフェッショナルの証でしょうか。でもこれは日本の良さだと思います。

音楽と歴史が好きです。今は時々、上田のバーShare で夜DJをしています。日本の歴史も好きで、特に伊達正宗と島津義弘が大好きです。



青木の小学生はみんな元気で優しいです。児童センターでは一緒に遊びながら英語に親しんでいます。このまま外国に興味を持ちながら大人になって欲しいと思います。

中学生は学校での様子しかわかりませんが、とてもまじめに授業に取り組んでいます。読み書きは得意なのに自信をもって話せないのが不思議です。どうも間違えたら恥ずかしいと感じているようです。間違えないとどこを直したらいいのか分かりません。私は日本語を勉強する

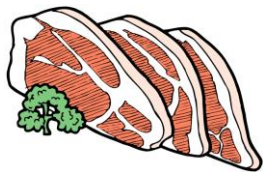
時たくさん間違えて、そこを直しながら日本語を習得してきました。アメリカでの授業では間違いはチャンスと考えます。間違いは悪いことではありません。英語に限らず、失敗を恐れずに生きていって欲しいと思います。



はつらつ先生 IN あおき

今回は、青木小学校3年2組担任 **小木曾 和彦** 先生です。

- 好きな食べ物…肉。できれば牛肉ですが、肉なら何でもOKです。肉の形が崩れている（ハンバーグや餃子）ものより、焼肉で食べるのが一番好きです。寿司やラーメンも大好きです。



• 苦手な食べ物…嫌いなものは全くありません。小学校の給食の粕汁には食べるのに苦労しましたが、今は好きです。

- 趣味…機械をいじるのが好きです。車の整備や改造を若い時はよくしていました。定年になったらスポーツカーに乗ってみたいです。



- どんな子どもでしたか？…小学校低学年の頃は教室で席に座ってられない子で、毎日先生に叱られていました。学校を飛び出して、何人かで田んぼの小屋に隠れていたこともあります。高学年になると世間がわかってきて落ち着いてきました。今仕事をしていても、子どもたちの気持ちがわかるので、“しょうがないかなあ”と思う時があります。

- 先生にならなかったら？…物を作るのが好きなのでエンジニアになっていたかもしれません。鍛冶職人にも憧れていました。モノづくりの秀でた人になりたかったです。

- 好きな有名人は？…ドラマや映画を見てると、役柄でその役者さんが好きになってしまいます。義理堅い人、頑張っている人、けなげな人の役が好きです。最近では、広島カープの黒田投手に感激しました。日清食品の創業者の安藤百福や本田技研の本田宗一郎はすごいと思います。



- お休みの日は何をしていますか？…里山をトレッキングしています。夫婦で行ったり娘と3人で行ったりします。頂上でコーヒーを飲んだり食事をしたり、帰りは温泉に寄ってきます。最近は、



伊那市にゅうかきやまの入笠山、飯山市なへくらやまの鍋倉山に登りました。



☆ △ ☆ △ ☆ △ ☆ △ ☆ △ ☆ △ ☆ △ ☆

へんしゅうこうき

塚田さんは、時々頼まれると個人宅の庭木の剪定や外構の工事をできる範囲でやっているそうです。マック先生は、エレキギターが得意で、学生時代バンドを組んでいたそうです。漢字や日本語の文章をもっと勉強したいとおっしゃっていました。村内でお二人をお見かけしたら気軽に声を掛けてみてください。